

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	27	年度
事業番号	218	事業名	健康づくり事業費			
担当課	保健課	担当係	保健係			
総合計画に最も関連ある施策	施策	2	やすらぎといきがいのあるまちづくり	連絡先	0858-72-3566	
	施策体系	1	健康づくりの推進	事業区分	□新規	
	主な事業	健康づくりの推進			■継続	
予算区分	款	4	衛生費	事業実施主体	■八頭町	
	項	1	保健衛生費		□その他	
	目	1	保健衛生総務費	計画期間	開始	—
	事業	218	健康づくり事業費		終了	—

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 八頭町民					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 地域組織の育成・強化を図り、町民の自主的な健康づくり活動を促進する。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 健康づくり推進委員会研修会、食生活改善推進員研修会を実施し健康づくりを図る。					
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 健康づくり推進委員による検診受診券等の配布、健康教室の開催、健康づくり推進委員研修会への参加を行い、集落の町民に伝達する。食生活改善推進員研修会で調理実習し、食による健康づくりを各集落に広める。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 健康づくり推進委員、食生活改善推進員等の地域組織の育成・強化を図り、町民が自主的な健康づくりを行うことができるようになる。					
根拠法令等	4	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし		法令等名→	八頭町健康づくり推進委員会設置要綱	

### 3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし				
	A	回	健康づくり推進委員会、研修会				
	B	回	食生活改善推進員研修会				
	C	回	食生活改善料理講習会				
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし				
	A	人	健康づくり推進委員会、研修会参加人数				
	B	人	食生活改善推進員研修会参加人数				
	C	人	食生活改善料理講習会参加人数				
	D	人	水中運動教室参加人数				

### 4 コスト

区分		単位	24年度	25年度	26年度		27年度		28年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	回	2	2	2	2	2	3	5
	B	回	17	21	18	20	18	18	18
	C	回	61	62	60	60	60	75	75
	D	回	0	0	0	0	46	46	46
成果指標	A	人	269	226	366	214	366	244	300
	B	人	255	299	280	286	280	314	320
	C	人	713	764	700	680	700	903	920
	D	人	0	0	0	0	500	525	530
トータルコスト		千円	11,402	11,071	11,157	11,049	9,887	5,783	6,102
担当職員数		人	1.2	1.2	1.2	1.2	0.9	0.4	0.4
職員人件費		千円	9,840	9,600	9,600	9,600	7,200	3,200	3,200
事業費		千円	1,562	1,471	1,557	1,449	2,687	2,583	2,902
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円							
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
	一般財源(単町費)	千円	1,562	1,471	1,557	1,449	2,687	2,583	2,902

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 27 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり推進委員による総合健康診査受診券の配布と受診勧奨、研修会及び県主催のがん征圧大会への参加を行った。</li> <li>・食生活改善推進員研修会で調理実習を実施し、各集落で調理講習会を実施した。</li> <li>・水中運動教室(64歳以下対象)を追加事業として実施し、健康増進を図った。</li> </ul>
	成果(具体的に)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり推進委員に研修会へ参加していただき、各集落住民に伝達してもらうことで、八頭町民全体の健康意識を高めた。</li> <li>・健康づくり推進委員の年間活動報告及び意見をアンケートで収集し、次年度の活動への参考とした。</li> <li>・食生活改善推進員による各集落での調理講習会を行い、「食」の観点からの健康づくりを推進した。</li> <li>・水中運動教室への参加者が増加した。</li> </ul>

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	健康受診率は微増であるので、受診率を健康やず21に掲げている目標値を達成するために、会の活動内容の見直しを行い、より有効なものとなるよう改善していきながら活動を継続する必要がある。食生活改善推進員による調理実習は、町民の健康意識を向上させるための啓発活動として必要不可欠である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	健康づくり推進委員の任期は、単年度であったり複数年度であったり集落によって様々で、活動の内容や活動に対する意識も各委員間で差がある。行政としては、町民に広く意識啓発を行うために、まず委員個人の意識向上を図る必要がある。また、食生活改善推進員をとおして町民の食の健康意識向上を行っていくことについても同様である。現在策定している健康やず21及び平成28年度に作成する食育推進計画(第2次)は町が主体となって作成しているため、その計画に沿った目標を達成するためには、当面は町が行なうべきである。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	集団検診が各地域で実施される前に健康づくり推進委員会を開催することとし、これに伴って会の開催準備でコストは増となる見込みだが、携わる職員の効率化を図ることにより、トータルコストとしては削減できている。食生活改善推進員研修会についても、同様に各地域ごとに開催しているもので、これ以上のコスト削減は難しい。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	総合健康診査(平成28年度は集団検診という。)を実施する目的は、病気の早期発見による、医療費及び介護給付費を抑制するためである。日々の食生活は、健康維持のための重要な要素の一つである。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	集団検診の受診率は僅かずつ増加している。健康づくり推進委員による啓発、食生活改善推進員による調理実習は、町民の健康増進に寄与している。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79 評価点による判定 2	健康づくり推進委員会の位置付け、その理解、重要性をより明確にし、会をとおして町民へ健康づくりの意識啓発していくこと、食生活改善推進員の活動をとおして、日々の生活に密着している食への正しい知識と理解は、今後の医療費や介護給付費を削減することに直結している。高齢化社会を見据えた場合、非常に重要であり、急務であると考ええる。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点		
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	疾病等に関する知識の習得、疾病予防意識の高揚、食生活の改善等に向けた活動は、病気になりにくい体づくりや受診率の向上を促進させるものであり、町民が健康に暮らしていくための重要な取組であるとともに、医療費や介護給付費等の抑制を図ることにもつながるものである。本事業においては、各集落の代表である健康づくり推進員や食生活改善推進員を中心に据えた、受診勧奨・啓発、健康に関する研修会・講座等の活動を行っており、集落という地域の繋がりを活かした住民相互の健康づくりの取組を行うことができている。しかし、その反面で「自分のからだは、自分で守る」という考え方もあり、活動における集落間での温度差、推進役への過度な負担等が課題として挙げられるところである。今後は、先進・優良事例等の研究も含め、集落における推進役としての位置付け、役割等について十分な検討・調整を行い、より効果的で、効率的な健康づくり活動を推進されたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 健康づくり推進委員の集落ごとの割り当て人数。旧町単位で、既存の会をそのままスライドし統合しているため、集落の人数に対する委員数に大きく差がある。各集落の役員に関しては、行政に決定権がないので、どのように整合性を取っていくかを検討する必要がある。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 健康づくり推進委員会の位置付け、その理解、重要性をより明確にすることで、活動に集落格差が出ないように全体の統一性を図る。